

其の六、 濠北方面より兵力抽出

一、昭和二十一年初頭に至るや、濠北方面、ホスダ列島方面は敵の主要攻軸

外に取り残され全般の戦果上遊兵となる虞大となりしを以て兵力之が

兵力を南方圏中祀地区に轉用するに適當とする南方軍の判断に

(数々に亘り)

基き二十一年初頭より濠北方面の陸、空、海軍一部隊を昭南地区

而して之等部隊抽出輸送用

に抽出するに依り、即ち抽出部隊より十号輸送機先輸送

第二次先輸送機松輸送及十号輸送機名籍を附し他連動機

二十号輸送

十号輸送と稱し

凌北方面よりの兵力抽出の第一次は第四六師団主力にして三月下旬

スンバ、スンバワ島より海軍、第三船艇輸送隊等担任実施せり。

此の当時は敵の海空よりする妨害は比較的少く概ね順調に実施せ

られ昭南周辺地区防衛の爲一戦と戦力を加ふるに至れり。

三. 光輸送第二次光輸送

次で第二方面軍より歩兵約三ヶ大隊に應ずる人員(約四千名)を

三月下旬よりスラバヤに搬送し方面軍の指揮下に入らしめしを第一

九軍司令官の指揮下に入らしめ馬來半島の戦備を強化すべく之に當

159

三月十九日命令せり。本輸送は光輸送と稱す。

光輸送に引き続き第二次光輸送として第三方面軍より歩兵三ヶ大隊

に應ずる人員(約四千名)をスラバヤに派遣し第三十九軍の指揮下に

入らしめられ方面軍はジャワ、馬來の輸送を担任することになり。

四 濠北兵カ抽出輸送要領の策定

南方軍は光輸送の実施中五月濠北兵カ抽出輸送要領を指令し昭和廿四年

末を目標として約五万五千名の抽出計画なり。抽出部隊は濠北地区全兵

カ陸海空軍命も約十万名中の半数にも最初大型中型の陸海軍艦

合計

約

使用船舶は

人員

般を主体とせしが逐次沈没せしを以て避規し小型船による連続輸送に
変換せざるを得ざるに至れり。

方面軍は六月十二日別紙左第廿の如く濠北兵力抽出輸送要領に訂しを基とす

の命令を傳達せり。

①と入小る

五、濠北兵力抽出輸送要領の改訂

濠北兵力抽出輸送は敵の航空機及潜水艦の執拗なる妨害により

甚実抱基がく困難となり加ふるに輸送関係各機関の連絡も不円滑

に全能力と發揮し得ざる実情にあり。然るに昭南防衛の爲方面

軍事機密

一 岡方作命申第百七十六號

第七方面軍命令

六月十二日 南

一 方面軍ハ別冊濠北兵力抽出輸送要領ニ

基キ光松號、十一號輸送ヲ處理セントス

岡方作命申第百六十二號ハ廢止ス

二 第十六軍司令官ハ十一號輸送及「マカッサル」

ニ集結スル光松號、爪哇向輸送並ニ爪哇

ニ到着スル馬來向光松號及十一號輸送ノ

島外輸送ヲ處理スベシ

160

其昭南交通隊司令官ハ瓜哇ニ到着スル馬來
向光松號及十一號輸送兵力軍需品ノ瓜
哇昭南間輸送ヲ處理スベシ

四、細部ニ關シテハ參謀長ヲシテ指示セシム

第七方面軍司令官 板垣征四郎

下達法 要旨電報後印刷交付

配布先 治、昭防、昭交

報告通報先 咸(南交、輝)

岡方作命甲第七十六號ニ基ク

參謀長指示

昭南 六月十二日

瓜哇ニ到着スル光松號兵力ハ大隊(中隊)ノ

集結完了ヲ待ツコトナク小部隊(將校ヲ長トス

毎ニ逐次前進セシムルモノトス

又個人被服裝備ハ瓜哇ニ於テ充足スルモノトス

第七方面軍參謀長 綾部橘樹

下達法
配布先
報告通報先
本命令ニ同ジ

161

軍事機密

濠北兵力抽出輸送要領

昭和二十年六月八日改訂
南方軍總司令部

濠北兵力抽出輸送要領

第一 要 旨

- 一、濠北兵力抽出輸送ヲ區分シ左ノ如ク呼稱ス
 1. セラム離島地區兵力抽出輸送——光 輸送
 2. セレベス地區兵力抽出輸送——松號輸送
 3. 海兵團配備變更警兵力抽出輸送——十一號輸送
 二、前項各輸送ノ輸送量並ニ輸送擔任ヲ左ノ如ク定ム

考 備	輸送區分			陸軍地上 陸軍船舶 陸軍航空 其他	陸軍 兵 力	陸軍 兵 力	陸軍 兵 力
	十一號	松 號	光				
一 本輸送人員凡日本軍人トス 二 數字ニ側線ヲ施セルモノハ陸軍地區ニ交轉使用スル人員ヲ示ス 三 軍需品ハ武器 彈藥 自動車(止ムヲ得サレバ機關及主要部品) 等 主要軍需品ノミトス 四 十一號輸送ハ本數字ノ外「テモトル」ヨリ「フロス」以「西」地區ニ人員 三〇〇〇〇里需品四、五〇〇也並輜凡五〇ヲ輸送ス	五〇〇〇	四〇〇〇	乙號 四〇〇〇	陸軍地上 兵 力	陸軍 兵 力	陸軍 兵 力	陸軍 兵 力
	三〇〇	二〇〇	九〇	陸軍 兵 力	陸軍 兵 力	陸軍 兵 力	陸軍 兵 力
	一〇〇〇	三四〇〇	一二〇〇	陸軍 兵 力	陸軍 兵 力	陸軍 兵 力	陸軍 兵 力
			三〇〇〇	陸軍 兵 力	陸軍 兵 力	陸軍 兵 力	陸軍 兵 力
	六三〇名	七六〇名	一四〇〇名	陸軍 兵 力	陸軍 兵 力	陸軍 兵 力	陸軍 兵 力
	五〇噸	三〇噸	一〇噸	陸軍 兵 力	陸軍 兵 力	陸軍 兵 力	陸軍 兵 力
	岡(治)	岡(治) 主カ10HF 輝(治)	主カ10HF 輝(治)	陸軍 兵 力	陸軍 兵 力	陸軍 兵 力	陸軍 兵 力
			陸軍 兵 力	陸軍 兵 力	陸軍 兵 力	陸軍 兵 力	

164

三 本輸送ハ本年未迄ニ所望ノ兵力ヲ少クトモ爪哇
為シ得レバ馬來ニ集結スルヲ目途トス

^{24A}(2A) 第二要領

四 輝(勢)ハ光輸送兵力軍需品ヲ主トシテ大發動
艦ニヨリ「アシボン」及「アール」ニ集結シ勢ヨリ毎旬
末其ノ集結狀況ニ南遣、二五根、輝、威、
方面艦隊、岡、司、並ニ電報ス

兵力ヲ集結シ艦艇輸送ニ吻合セシムル為集結ニ
關スルニ南遣ノ要求ハ輝(勢)ニナシ得ル限リ之

^{24A}(16A) 充足スルニ努ムルモノトス

五 岡(治)ハ十一號輸送兵力軍需品ノ「チモール」
「フロレス」間輸送(主トシテ大發動艦)「フロレス」

「スンバワ」間ノ輸送（人員ハ連綴輸送、軍需品ハ「マル
メラ」―「ビマ」間大發及機帆船輸送）及「スンバワ」
以西ノ連綴輸送ヲ實施ス

六、輝（勢）ハ「セラム」離島―「セレベス」間ノ副輸送トシテ
「セラム」―「タリアブ」―「セレベス」間ニ大發動艇
ヲ主トスル新輸送路ヲ設定シ艦艇輸送ノ輕減

ヲ圖ルモノトス

七、輝ハ松號輸送兵力、軍需品並ニ「マカツサル」以外
ノ地點（「セレベス」）ニ到ル者スル光輸送兵力、軍需品
ヲ「マカツサル」ニ輸送集結シ其ノ狀況ヲ毎旬末
岡、昭南交通隊、治、瓜哇交通隊、ニ南遣、二三六、
威、方面艦隊ニ電報スルモノトス

八 方面艦隊(三南遣)ハ光輸送兵力軍需品ハトア
一ル及「アンボン」^{マカッサル}「スラバヤ」向輸
送並ニ周輸送往航時ニ於ケル軍需品輸送ヲ擔
任ス

九 方面艦隊(三南遣)ハ毎月初艦艇輸送計畫

概要ヲ威岡輝司令、治勢鯉襲ニ五根ニ電報ス
又艦艇突入ニ際シテハ突入一週間前ニ輝、治司、

襲ニ其ノ要旨ヲ電報スルモノトス

トソール「カンボン」ヘノ兵力集結ハ其ノ彈力性乏

シキニ鑑ミ兵力集結狀況ニ應ジ艦艇輸送ヲ實

施スルニ努ムルモ要スレバ輝(勢)ニ兵力集結ニ關

シ所要ノ要求ヲ爲スモノトス

161

又毎月末前月間ニ於ケル輸送実績ヲ威方面艦隊、岡、治、輝、司、機、表ニ電報スルモノトス

十、方面艦隊(ニ南遣)ノ第八項輸送使用艦艇ヲ別紙第一ノ如ク豫定ス

十一、岡(治)ハ「マカツサル」ニ集結スル光輸送、松號輸送兵力軍需品、爪哇向輸送ヲ擔任シ輝之ニ協力ス

爪哇ニ到着スル光、松號及十一號輸送兵力軍需品、馬來向輸送ハ岡(治、昭南交通隊)ノヲ擔任ス
十二、方面艦隊ハ交通船艦艇ニヨリ前項輝、岡及昭南交通隊ノ行フ輸送ニ協力ス

十三、司(襲)ハ本輸送掩護ヲタメ主トシテ「マカツサル」

165

近(狀況ニヨリ「ケンダリ」附近ヲ含ム)ノ小型船
艇輸送爲シ得レバ「マカソサル」ノ「スラバヤ」間ノ
輸送竝ニ小「スング」運送輸送ヲ掩護ス司(襲)ハ
毎旬不掩護機ノ狀況ヲ感、方面艦隊、岡輝、
二南遣、沿海ニ通報スルモノトス

十四

岡(治)ハ昭南交通隊(小哇交通隊)ヲシテ第十一
項輸送ノ實施ヲ容易セラシムル如ク施策スルト
共ニ第四及第六項輝ノ行フ大發動艇輸送及
機帆船輸送ノ促進ヲ圖グタノ舟艇機帆船同修
理部品補修材料燃料ノ補給ヲ圓滑ナラシ
ムルモノトス

昭和二十年九月末迄完成豫定ノ舟艇配分ヲ

1436

別紙第三通定ム
又岡(治)ハ爪哇特ニ「ジャカルタ」ニ集結セル光
松號、十一號輸送兵力軍需品ヲ毎旬末感
方面艦隊ニ電報スルモノトス

1437

169

別紙第一

光松號海軍擔任輸送量及使用艦艇一覽表

考 備	松號輸送		光輸送		輸送區分		使用艦艇
	一〇九號哨	哨戒艇	三六號哨	雁 雉	雁	雉	
一狀況ニ依リ七月以降松號輸送ニ南海及掃入ヲ九月以降光輸送ニ若鷹ヲ用スルコトアリ	二五〇		二〇〇	右	水雷艇	三〇〇	艦名區分 艦種 塔載人員 使用區間
	マカツタル	スラバヤ	マカツタル	右	同	三〇〇	

別紙第二

新造舟艇配分表(昭和二十年九月末迄完成モノ)

考 備	機 帆 船			大 發	船 種	完 成 豫 定 隻 數	配 當 先	記 事
	六口噸型	七月中旬	八月中旬					
	七月中旬	八月中旬	九月中旬	九月下旬	一一一	五口	六一	本表以外、大發、配分 二關シテ、現地部隊ト 協議、上之ヲ定ムルニ ノトス
	七	二	一					
	五	一	一					

68

入の
よ

軍は極力之が促進に努力せり。七月十六日、戦況推移に伴ふ蒙北地区

兵力抽出輸送要領を策定し従来の方針を一掃して抽出容易なる

ものより抽出する方針に変更し別紙^{その}第^一号^の如く発令せり。

次で南方軍は^{七月下旬}第七方面軍主権の下に関係陸海空軍主任者とシヤカクタ

に會合し兵力抽出の促進に関する具體的事項を決定し着々實施中

終戦とせり。

軍事機密

岡方作命申第三百七號

第七方面軍命令



七月十六日 南

一「スラバヤ」ニ集結完了セル船舶工兵第十四

聯隊ノ一中隊(大發ニ口隻共)ヲ現在地ニ

於テ予ノ指揮下ニ入ラシメラル

ニ前條中隊ハ「スラバヤ」ニ於テ第十六軍司

① 令官ノ指揮下ニ入ルベシ

三第十六軍司令官ハ前條中隊ヲ指揮シ

169 十一號輸送ヲ強化促進スベシ

四、第十六軍司令官ハ壕北地區兵力抽出輸送ニ關シ岡方^{前命令ニ據}作命申第百七十六號ニ據ル外別冊「戰況推移ニ伴フ壕北地區兵力抽出輸送要領」ニ據ルベシ
第七方面軍司令官 板垣征四郎

~~下達法 要旨電報後印刷交付
配布先 治
報告通報先 威(南支勢)~~

別冊

戰況推移ニ伴フ濠北地區兵力抽出輸送要領

方針

戰況ノ推移ニ伴ヒ濠北地區兵力抽出輸送要領部
改訂ス即チ「ホルネオ」特ニ「パリツクパン」ヲ敵空海基
地トシテ使用開始後ニ於テハ右輸送ヲ妨害セラレ
多クヲ期待シ得ザルニ至ルベキヲ以テ自今短期間ニ
於テ抽出輸送容易ナル方面ヨリ戦力充實セル部
隊ノ輸送ヲ促進スルト共ニ爾後小舟艇ニ依ル連綴
輸送ニ轉換ス

要領

(一) 十一號輸送

戰況、如何ニ拘ラズ計畫通強行ス

岡(沿海)勢(鯉)ハ逐次在「タニバル」部隊「チモール」島經由兵力抽出ヲ計畫準備ス

岡(沿)ハ逐次「タニバル」「チモール」間、連綴基地其他ノ設定ヲ準備スルト共ニ隨時現十一號使用船舶兵力ヲ以テ同連綴抽出輸送ヲ實施ス

(二) 光輸送

艦船ノ使用不可能トナリタル以後ニ於テハ之ヲ中止

(三) 松號輸送

小舟艇ニ依ル連綴輸送ヲ準備ス
「セレベス」島「フロレス」島間ノ輸送ハ勢ノ擔任トシ爾

121

後小「スندگان」連綴輸送ニ依ル
岡(沿海)ハフロレス島ニ於ケル勢舟艇ノ基地設
定ヲ援助シ修理補給ヲ擔任ス

(四) 輸送順位

各號輸送ヲ通ジ左ノ順位ニ輸送ス

1. 裝備完整セル建制陸軍地上戦闘部隊
2. 海軍戦闘部隊

3. 航空地上部隊及後方部隊等ヨリ轉屬セル人員等

4. 船舶部隊

但シ岡ノ要求ニ應ジ船工四竝ニ四八艇ノ一部ヲ優先
輸送スルコトアリ

(五) 九月ヨリ十二月ノ間治新造大發約五〇隻ヲ勢ニ配當ス